



われら主の僕

リベラルアーツの森で育まれ

ICU伝道献身者の会 編

伝道者たちのバックグラウンド

献学以来3万人の卒業生を送り出してきた国際基督教大学（ICU）は、牧師をはじめ数多くの伝道者を輩出してきたことでもよく知られる。

この特異な学舎で彼らの献身の志はいかにして育まれたのか。70名余りの卒業生たちの、遺稿も交えて記される興味尽きない証し。

〔寄稿者たち〕

富岡徹郎／松永希久夫／小澤貞雄／新保満／竹前昇／原崎百子／川田殖／桑ヶ谷森男／
那須斐子／丹波望／荒瀬正彦／斎藤和明／並木浩一／棟居勇／伊藤瑞男／斎藤剛毅／渡
邊正男／絹川久子／長沢道子／左近和子／田中弘志／山村慧／稲垣博史／浅井重郎／吉
馴明子／宮崎彌男／矢澤俊彦／青野太潮／安積力也／稲垣緋紗子／梅津順一／栗林輝夫
／菊地純子／大橋章／飯島信／末吉高明／鎌野善三／松田繁雄／有馬平吉／高橋貴美子
／中島隆宏／小野慈美／森本あんり／伊藤節子／北川一明／高橋 一／柴田安子／今村あづさ／近藤万里子／梅
津裕美／ウイリアムズ郁子／石渡敬子／神代真砂実／佐野正子／林原淑子／平野克己／塩谷直也／徳田亮／山
本英美子／鵜崎創／河野克也／荒川朋子／伊藤英志／北原葉子／菊地恵美香／相澤 一／荒井偉作／焼山満里子
（ほかエーミル・ブルナー、大塚久雄、森有正、武田清子、古屋安雄ら、教師たちのことばを紹介）



関連

無我夢中

桜美林学園の創立者・清水安三の信仰と実践

桜美林学園チャプレン会編著

◆A5判・228頁・定価1980円

2月26日発売

◆A5判・270頁・定価2310円

教会論と終末論

サクラメントと終末論を視野に入れた教会論

松田 央 [著]

◆四六判・256頁・定価2200円

キリスト教信仰の根本は何か

2月26日発売

イエスの言行に現わされた福音を信じ、教会生活を通して信仰を實踐し、終末を待ち望む——この道筋を聖書に即して分かりやすく解説。キリスト論、教会論、特にサクラメント論、そして終末論を学ぶための好著。著者による積年の探求の成果。

著者 松田 央（まつだ・ひろし）

1954年生まれ。慶應義塾大学法学部を経て、同志社大学大学院神学研究科で学ぶ。神戸女学院大学名誉教授。日本基督教団正教師・博士（神学）。主な著書…『キリスト論』（南窓社、2000年）、『信じること、疑うこと』（冬月舎、2005年）、『キリスト教の基礎』（キリスト新聞社、2007年）、『世の光キリスト』（キリスト新聞社、2008年）、『キリストの道』（冬月舎、2011年）、『信仰の基礎としての神学』（新教出版社、2018年）など。

著者の既刊書

信仰の基礎としての神学

キリスト教神学への道案内

◆四六判・186頁・定価1870円

●話題の注解書

牧会書簡

【現代新約注解全書】

辻 学 著

◆A5判・759頁・定価9900円

牧会書簡と総称される「第一テモテ」「第二テモテ」「テトス」の3書簡はパウロの名を借りたいわゆる偽名書簡である。この謎に満ちた書簡群を徹底的に読み解いた、世界最高水準の記念碑的注解書。邦語で類書に乏しいきわめて貴重な労作。

◆同じ著者による既刊書

ヤコブの手紙 【現代新約注解全書】

◆A5判・300頁・定価5500円

偽名書簡の謎を解く パウロなき後のキリスト教

◆A5判・233頁・定価2420円

クリス・グリノフ著／薄井良子訳

クイア神学入門

〔仮題〕

レスビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー等々、ジェンダーやセクシュアリティの点で非規範的であることを表す「クイア」。それをめぐる多様な神学的冒険を平易に解説した画期的入門書。 四六判・予価2900円

ブッカー・T・ワシントン著／佐柳文男・佐柳光代訳

奴隷より身を起こして

二〇世紀初頭のアメリカ合衆国で最も著名な黒人だったワシントンの自伝。奴隷の子がどのような苦学力行の末に成功したかを綴る。黒人「保守派」の元祖と目される人物の自画像を通じて、読者は、差別に対する闘争と迎合の微妙な狭間を考えさせられるだろう。大森一輝氏（北星学園大学）によるワシントン受容史をめぐる解説も充実。 四六判・予価2800円

マシュー・ホケノス著／穂田信子訳

マルティン・ニーメラー ヒトラーに逆らった牧師

〔仮題〕

アメリカ人教会史家が冷静な筆致で著した最新の評伝。第次大戦ではUボートの艦長として戦い、牧師に転身した後もなおナチオナリストで、当初はナチに共鳴したが、やがて批判に転じ、戦時下は強制収容所に囚われ、戦後はエキュメニカルな場で活躍した激動の生涯。 四六判・予価3500円

● 1月に出た本と雑誌

キルケゴールのキリスト論

鹿住輝之著 同時代のヘーゲル主義者との関係で



キルケゴールの体系批判は同時代のヘーゲル主義者に向けられていた。デンマーク社会の近代化に直面した彼らの対応の相違をキルケゴールのキリスト論に見出し、その理路を解明した俊英の力作。

◆A5判・定価4950円

旧約聖書 預言書

宮平望著 要約と概説



好評の旧約解説シリーズ第4弾。旧約の複雑多様な世界を読み進めるための絶好の手引き。本巻はイザヤ書からマラキ書までの17書を扱う。シリーズ全4巻完結。

◆A5判・定価2530円

福音と世界

◆定価660円

2月号 心の時代と宗教

寄稿者：林研、杉岡良彦、濱崎雅孝、家山華子、上田直宏、松島公望／連載 今高義也、後藤里菜、飯田華子、金歌晃、長尾優、C・J・サンダース&A・ヤーバー、山崎ランサ、ム和彦、山口陽一、勝村弘也

販売部から

非信徒として入社して5年が経とうとしています。この間に、聖書やキリスト教書と触れ合うことで多くのことを学んできましたが、キリスト教の教えに触れる度に次のような通奏低音が聴こえてきます。すなわち、この世界を統治するのは神であって決して人ではない、という確信の音が聞こえてくるのです。弊社既刊のジャック・エリユール『アナキズムとキリスト教』では、旧約聖書、ヨハネの黙示録、ペテロの手紙一、そしてパウロ書簡に解釈を加えつつ、聖書には「anarchie（権威と支配がないという意味での「アナキー」）」を示す傾向があるとし、「神もなく主人もなく」ではないキリスト教に内在するアナキーなポテンシャルを切り開いていきます。神を信じる、その一点にすべてを尽くすことで、自らを出所として人自身が創り出すあらゆる権威と支配を打ち破ること。そして、人が人により支配されるこの世界を終わらせるために（これは先日、長らく続いたマンガ連載とアニメ放映が共に完結した諫山創『進撃の巨人』に流れる通奏低音でもあります）。非信徒の身でありながらも、日本におけるキリスト教出版の歴史の末席に名を連ねている身として、その教えの意味を学び続けたいです。（隅田）

編集部から

●森野善右衛門先生が昨年7月に亡くなっていたことを知らされたのは10月末のことでした。先生は東北学院大学で教鞭をとるとともに、日本におけるボンヘッファー研究者の草分けとして「共に生きる生活」「現代キリスト教倫理」「告白教会と世界教会」「教会の本質」「説教と牧会」など多くのボンヘッファー作品の翻訳によって後進を裨益してくださいました。そのお仕事は日本の教会（とりわけ日本基督教団）のあり方に対する真剣な憂慮によって方向づけられていました。ときどき編集部にお電話をくださり、「最近の『福音と世界』はどうもピンときません。もつと教会の課題を取り上げてください」と厳しい言葉を（しかし口調は柔らかく）おっしゃるのが常でした。最近はお電話がないので気になっていました。もう先生と語り合うことができないのは寂しい限りです。●地元の書店が1月に閉店し、愕然としました。ちよつと立ち寄るつもりで気づいたら1時間くらい滞留させられる品揃の豊富な棚でした。30年以上の付き合いですが、最近ネット書店で済ますことが多く、気づいたら2年近く買い物をしていませんでした。リアル書店を支えたいと言いながら、何たる言行不一致か。悔やまれます。（小林）

福音と世界

2024年
3

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料（送料共）8760円

特集・反動

私たちは陰謀をつづけるだろう

——アガンベン、そして『陰謀主義者宣言』とともを考える反動—— 五井健太郎

反動の意味転換——アナク口過激派をめぐる—— 長崎 浩

天命と反動——山上徹也再論—— 平井 玄

気候運動と反動的な未来——箱田 徹

反動としての「ポスト世俗」——ハーバース、テイラー、バトラー—— 坪光生雄

いま、革命は反動となった——ボードリヤールの「ユートピア主義」の視座から—— 安藤 歴

日本基督教団と北森神学 1 川口葉子

書評 辻 学著『牧会書簡』 山口希生

浅野淳博著『新約聖書の時代』 廣石 望

【好評連載】

◆八木重吉の聖書 9 今高義也

◆神と「女性的なるもの」を辿って 10 後藤里菜

◆グレート小林と3人の女 11 飯田華子

◆私は告白する、私の神を 12 長尾 優

◆地域から考える在日朝鮮人史と教会史 12 金 耿 昊

◆教会におけるマイクグレゴリー 23 サンダース、ヤーバー

◆新約釈義 ルカ福音書 27 山崎ランサム和彦